

知り合うことから始める

三日月小学校 6年 東條 寧久

三日月小学校では、毎年四～六年生が西はりま特別支援学校と交流をしています。ぼくが四年生の時は、コロナのため三日月小学校での交流ができなかったので、去年が初めての交流でした。その時は、六年生が交流会を企画して、楽しい時間を過ごしました。

今年、ぼくは六年生になり、七月に西はりま特別支援学校を訪問することができました。

まず初めに、事前学習で特別支援学校について学びました。特別支援学校では、一人ひとりが自立し社会参加できるよう、生活や学習で困る場面について、自分で考え行動を選択しながら解決することを学んでいるそうです。ぼくは、特別支援学校のホームページを見たり、名札を作ったりして、交流が楽しみな気持ちもありましたが、「うまく話すことができるかな。」
「楽しく交流できるかな。」と不安もいっぱいありました。

いよいよ訪問です。特別支援学校には、大きな声で話す子、うまく話せない子、車いすで過ごしている子など、いろいろな子たちがいました。実際に交流してみると、みんな笑顔いっぱい、いい学校だなあと思いました。お互いに自己紹介をした時に、好きな食べ物が一緒の子がいて、とてもうれしくなりました。ボール運びゲームをした時には、ペアの子と協力してうまくボールを運ぶことができ、お互いが笑顔になりました。

ぼくが交流したクラスには、四～六年生の子たちが一緒に学んでいて、一人ひとりがよりよく学べるよう、たくさんの工夫がされていました。また、給食の時間には、一人ひとりに合わせて刻んだりなめらかにしたりして工夫していると聞き、驚きました。ぼくたちの学校とは違いも多いけれど、それはとても大切なことなんだなと感じました。

ぼくは、四月に自転車に乗っている時に転んでしまい、左うでを骨折しました。いろいろなことが不自由だし、友だちとも思いきり遊べないなどの制限があり、とてもつらい二カ月でしたが、思うように体が動くことのありがたさを実感しました。けがしている間、家族や友だちがたくさん助けてくれました。とてもうれしかったし、少しの手助けがあれば、みんなと一緒に過ごすことができました。

ぼくの経験と特別支援学校のみんなとの交流を通して、一人ひとりに合った支援があれば、誰もが気持ちよく楽しく過ごすことができることに気づきました。だから、これからも、障がいがあってもなくても、困っている人や手助けが必要な人がいたらサポートをし、交流をしてその人のことを知り、仲よくなりたいと思いました。

十二月には支援学校の子たちが三日月小学校に来てくれます。ぼくは、みんなが楽しめる遊びを考えたり、分かりやすい説明をしたりして、素敵な交流会にしたいです。そして、当日はみんなを笑顔でむかえ、緊張がほぐれるように声をかけながら、もっともっと仲を深めたいです。